

投資会社ノバポイント・キャピタルの最高投資責任者、ジョゼフ・スローカ氏 2日の米連邦公開市場委員会（FOMC）後のパウエル米連邦準備理事会（FRB）議長の会見内容は一部投資家の失望を誘った。議長が次回12月会合以降の利上げ減速に向けた道筋を明確に示さなかったためだ。金融引き締め観測が盛り返し、株売りを促した。

私にとっては議長発言は想定内の内容だった。FRBは2023年1～3月期まで利上げし、政策金利の終着点（ターミナルレート）は4.5～5%程度になるとみているためだ。FRBはインフレが政策目標に近づくと自信が持てたら早急に利下げに転じると予想する。23年10～12月期に利下げするだろう。

今後の相場は楽観している。米経済は4～6月期までに2四半期連続でマイナス成長となったが、経験則では景気後退が起きた翌年は株高になりやすい。8日の米中間選挙では政権と議会多数派の政党が異なる可能性が高く、来年は保守的な財政政策が見込める。大規模な財政出動がインフレを招いた記憶が新しいだけに、投資家は歓迎するだろう。相場水準の予想は出していないが、地政学リスクが高まるようなことがなければ今年年末や来年は現状より高くなるとみている。

最近の主力ハイテク株の弱含みはまだ続きそうだ。インカムゲイン狙いの投資が多い当社は配当を支払うスマートフォンのアップルやソフトウェアのマイクロソフトに投資している。ただ、金融引き締め政策の転換時期が不透明で長期金利が高止まりしそうななか、高PER（株価収益率）で配当支払いがないハイテク株は積極的には買にくい。

[NQNニューヨーク＝川内資子]